

トップページ

本サイトについて

教材のねらい

利用規約

保護者・指導者の方々へ

作品紹介サムネ

© 2025.10.17 -手袋を買いに-を追加しました

新着記事

おすすめ記事1

トピックス

人気記事

最近の記事

作品紹介
サムネ1

小学校低学年向け

芥川龍之介「羅生門」

© 2025.10.17

作品紹介
サムネ2

小学校低学年向け

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」

© 2025.10.17

作品紹介
サムネ1

作品紹介
サムネ2

小学校低学年向け

小学校高学年向け

おすすめ記事1

作品紹介
サムネ2

↑

下層ページ

▼ 2. 「手袋を買いに」新美南吉 読み手：山田美鈴

「手袋を買いに」新美南吉 読み手：山田美鈴

作品紹介サムネ

小学生低学年向け

読み手
写真

読み手紹介

作者紹介



新美南吉（にいみ なんきち）は、「ごんぎつね」や「手ぶくろを買いに」などの作品で知られる、日本の児童文学作家です。わずか29歳で亡くなりましたが、多くの心温まる童話や詩を残し、その作品は今もなお小学校の教科書に採用されるなど、広く読まれています。

生涯

大正2年（1913年）、愛知県知多郡半田町（現・半田市）に生まれます。本名は新美三八（にいみ しょうはち）。幼い頃に母を亡くし、複雑な家庭環境で育ちました。

東京外国語学校（現・東京外国語大学）を卒業後、政教に近い安成高等女学校（現・安成高等学校）などで教師として勤めました。この教師時代に、多くの優れた作品を執筆・発表しています。しかし、幼少期から病弱で、健康給粮を用い、昭和18年（1943年）に29歳の若さでこの世を去りました。

主な代表作と特徴

新美南吉の作品は、紳士の風習を取り入れた情景描写の美しさ、そして

静かに読まれて欲心する物語。

物語のあらすじ



「手袋を買いに」は、手袋を買ってあげたい母ぎつねと高徳げになった子ぎつねの物語です。母ぎつねは人間が怖い遠来の思い出から、子ぎつねに人間の手になるように連れて一人で買い物に行かします。しかし、子ぎつねはうっかり狼の手を出してしまいましたが、帽子屋さんは黙って手袋を売ってくれます。母ぎつねは「人間ってほんとうにいいものかしら」とつぶやき、物語は終わります。

物語のチェックポイント



1. 母ぎつねと子ぎつねの心の揺れ

◎ **母ぎつねの疑心**: 子ぎつねに手袋を買ってやりたい気持ちと、人間への不信感（遠来の経験から）との間で揺れ動きます。

◎ **子ぎつねの純真さ**: 人間への先入観を持たない子ぎつねが、偶然本物の手を出してしまいい、人間と初めて心を通わせる場面が物語の鍵となります。

2. 子ぎつねの成長

◎ **狼の目的**: 寒くて寒くなった手を温めるための手袋を買いに行くという、ささやかな目的から物語が始まります。

◎ **異なる世界の体験**: 子ぎつねが、自分たちの住む森とは異なる人間社会を体験することで、視野が広がります。

3. 人間と動物の関係性

◎ **互いの見方**: 人間を怖いと思う動物と、動物の純粋な優しさに触れる人間、両方の視点から物語が描かれています。

◎ **信頼の回復**: 帽子屋の主人が子ぎつねの子を見て驚きながらも、窮乏を受け取り手袋を売る場面は、人間と動物の間に信頼関係が生まれる瞬間を示しています。

声優が讀む台本を見ながら物語を聞いてみよう！

[台本のダウンロードはこちら](#)

感想文を書いてみよう！

[感想文の入手はこちら](#)